

## ■調査結果

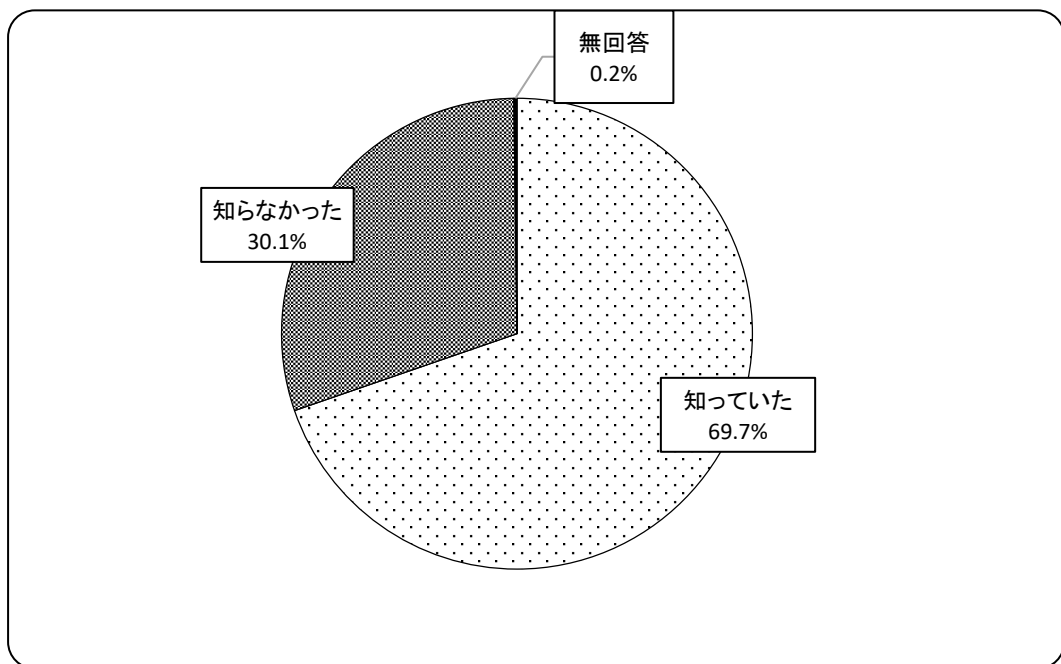
### 1. 大阪 880 万人訓練について

《事前浸透率》

問1. 9月4日午前9時30分より前に、この訓練があることを知っていましたか。 【選択は1つ】

訓練があることを「知っていた」と回答した方が69.7%と、ここ数年（平成28年度64.6%、平成29年度67.9%、令和元年度63.2%）60%台前半から後半で事前浸透率が推移しており、浸透率は伸び悩んでいると考えられる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	知っていた	329	69.7%
2	知らなかった	142	30.1%
	無回答	1	0.2%
	計 (回答総数)	472	100.0%



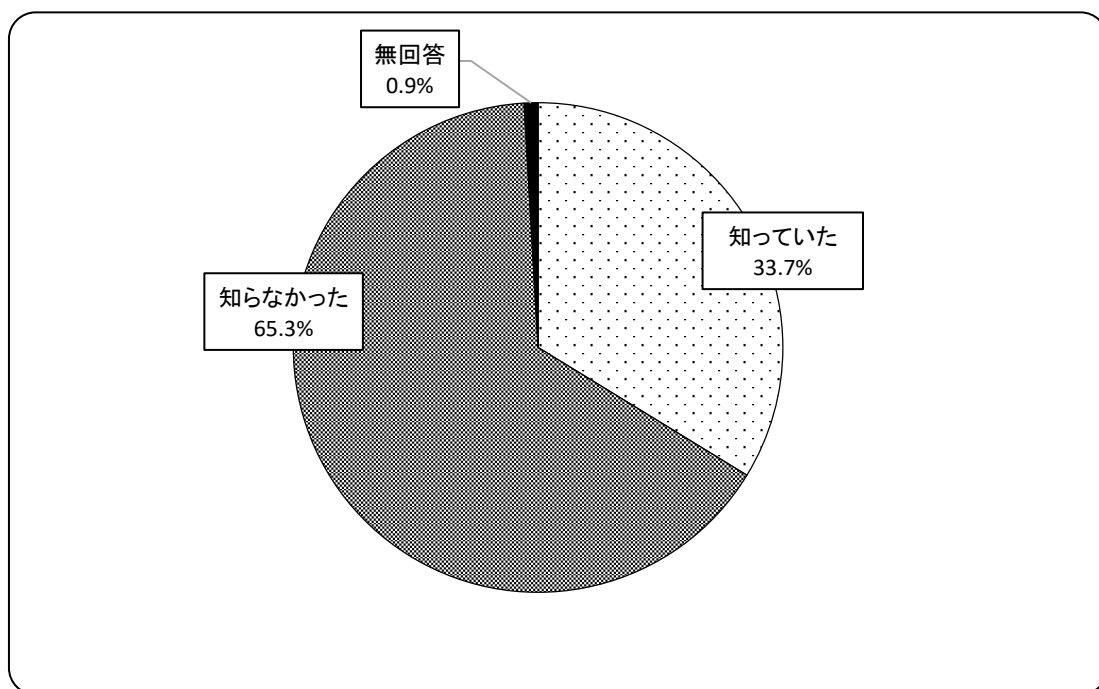
《事前浸透率》

問2. 問1で「1 知っていた」と回答された方に伺います。

9月4日午前9時30分の訓練開始より前に、大阪880万人訓練の開始時刻が、午前11時から午前9時30分に変更されたことを知っていましたか。 【選択は1つ】

訓練開始時間の変更について、「知らなかった」と回答した方の割合が65.3%と高く、訓練開始時間の変更された場合の周知方法について検討が必要であると考えられる。

	選択項目 (N=329)	回答数	構成比
1	知っていた	111	33.7%
2	知らなかった	215	65.3%
	無回答	3	0.9%
	計 (回答総数)	329	100.0%



《広報効果》

問3. 問1で「1 知っていた」と回答された方に伺います。

この訓練があることをどのような媒体・経路で知りましたか。 【複数回答可：いくつでも】

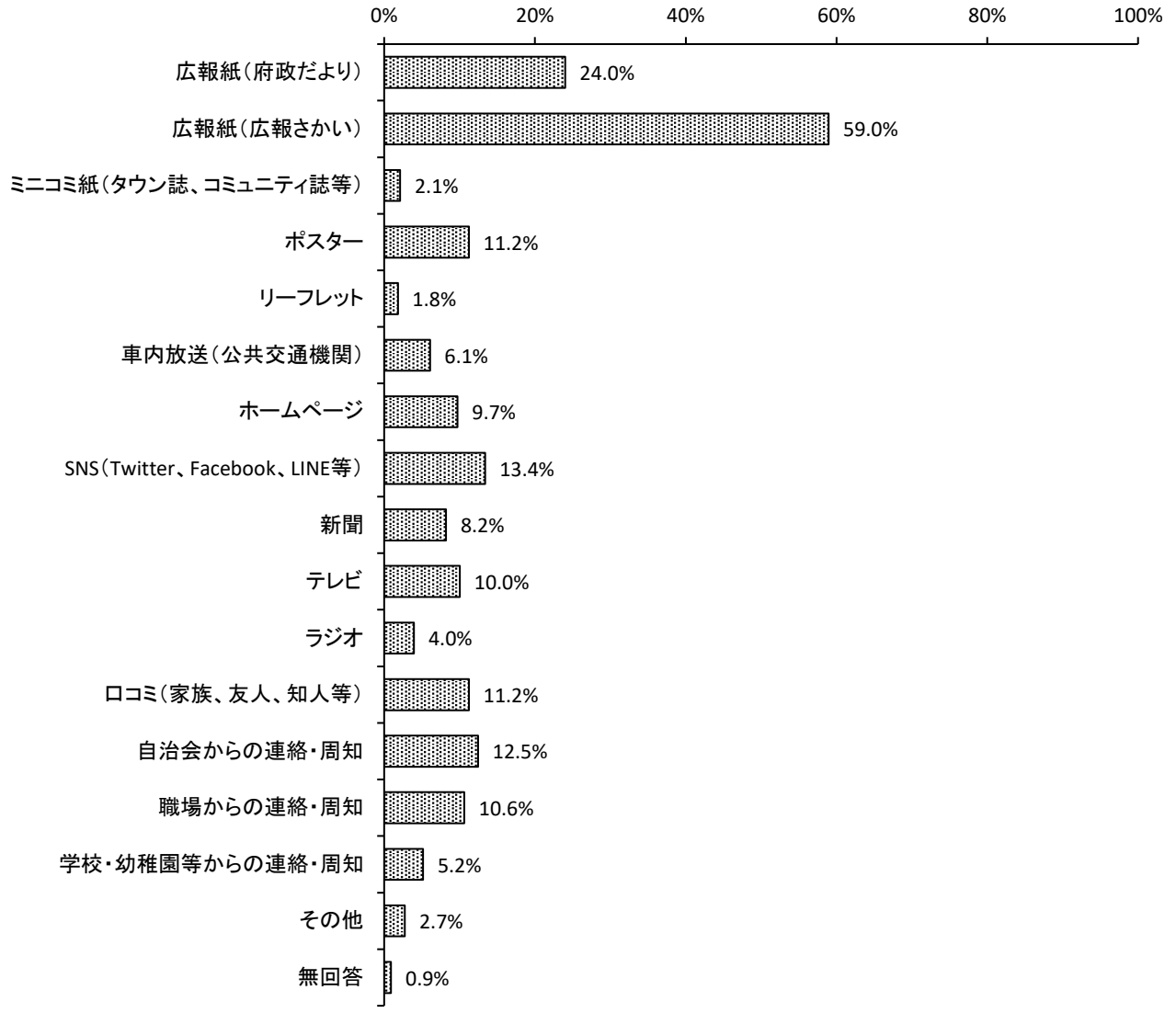
訓練があることを知った媒体・経路の回答で、「広報紙（広報さかい）」が59.0%、「広報紙（府政だより）」が24.0%と割合が高く、事前周知の方法として広報紙が最も効果的であると考えられる。

	選択項目（N=329）	回答数	構成比
1	広報紙（府政だより）	79	24.0%
2	広報紙（広報さかい）	194	59.0%
3	ミニコミ紙（タウン誌、コミュニティ誌等）	7	2.1%
4	ポスター	37	11.2%
5	リーフレット	6	1.8%
6	車内放送（公共交通機関）	20	6.1%
7	ホームページ	32	9.7%
8	SNS（Twitter、Facebook、LINE等）	44	13.4%
9	新聞	27	8.2%
10	テレビ	33	10.0%
11	ラジオ	13	4.0%
12	口コミ（家族、友人、知人等）	37	11.2%
13	自治会からの連絡・周知	41	12.5%
14	職場からの連絡・周知	35	10.6%
15	学校・幼稚園等からの連絡・周知	17	5.2%
16	その他	9	2.7%
	無回答	3	0.9%
	計（回答総数）	634	192.7%

[16 その他]

【主な回答】

- 毎年同じ時期に実施されているので意識していた。
- Yahoo! 防災速報アプリ
- おおさか防災情報メール



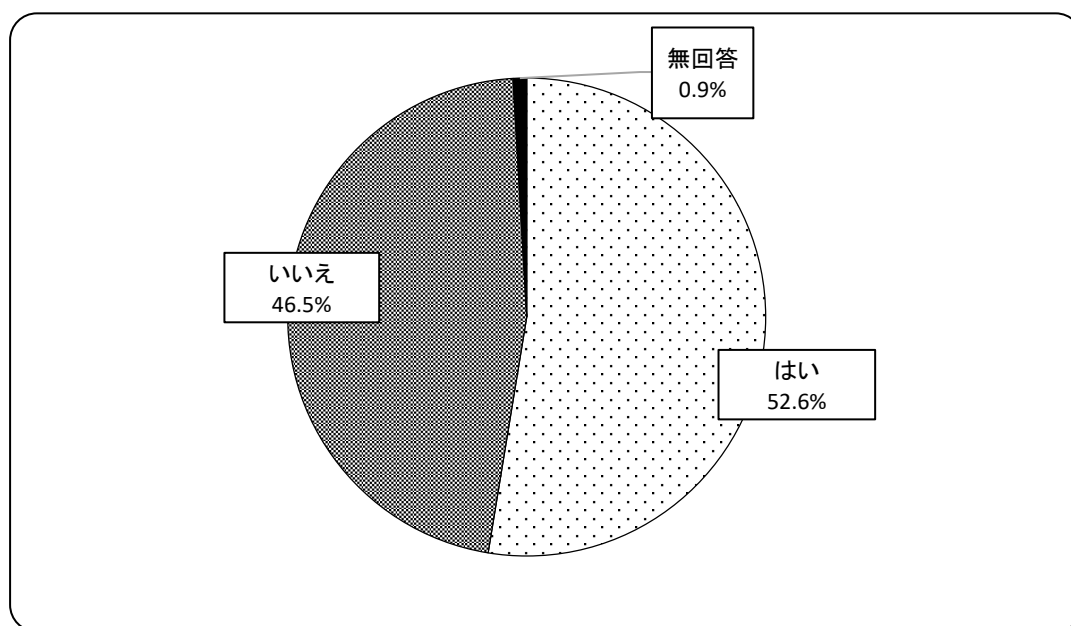
《訓練を知ってからの備え》

問4. 問1で「1 知っていた」と回答された方に伺います。

この訓練が実施されることを知って以降、9月4日午前9時30分の訓練開始までに、地震や津波が発生したときにどのような行動をすれば良いのか確認しましたか。 【選択は1つ】

地震や津波が発生した時にどのような行動をすれば良いのか確認した方は 52.6%と、昨年度調査の 59.3%から 6.7%減少している。

	選択項目 (N=329)	回答数	構成比
1	はい	173	52.6%
2	いいえ	153	46.5%
	無回答	3	0.9%
	計 (回答総数)	329	100.0%



《訓練を知る前から取り組んでいた備え》

問5. この訓練を知る前から、災害に備えていたことはありますか。問1でこの訓練を「2 知らなかった」と回答された方は、9月4日午前9時30分より前から備えていたことをご回答ください。

【複数回答可：いくつでも】

何らかの備え、確認を行った方の割合が少なくとも85.6%、「13 何もしなかった／できなかった」と無回答の方の構成比を100%から除いた割合であり、日ごろからの備えの重要性の周知が進んでいると考えられる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	建物の耐震性の確認	109	23.1%
2	地域の振動想定、地盤の状況の確認	49	10.4%
3	家具やロッカーなどの転倒防止措置の確認	149	31.6%
4	津波ハザードマップや防災マップの確認	226	47.9%
5	備蓄物資の確認	228	48.3%
6	「まずは身を守る」※の確認	189	40.0%
7	あわてて帰宅しないための確認	31	6.6%
8	帰宅ルートの確認	53	11.2%
9	最寄りの避難所の確認	188	39.8%
10	家族会議の開催	65	13.8%
11	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	40	8.5%
12	その他	11	2.3%
13	何もしなかった／できなかった	54	11.4%
	無回答	14	3.0%
	計 (回答総数)	1,406	297.9%

※「まずは身を守る」

●屋内では…

- ・机の下にもぐる、頭を保護する
- ・出口に殺到せず、落ち着いて避難
- ・エレベーターは使わず、階段で避難

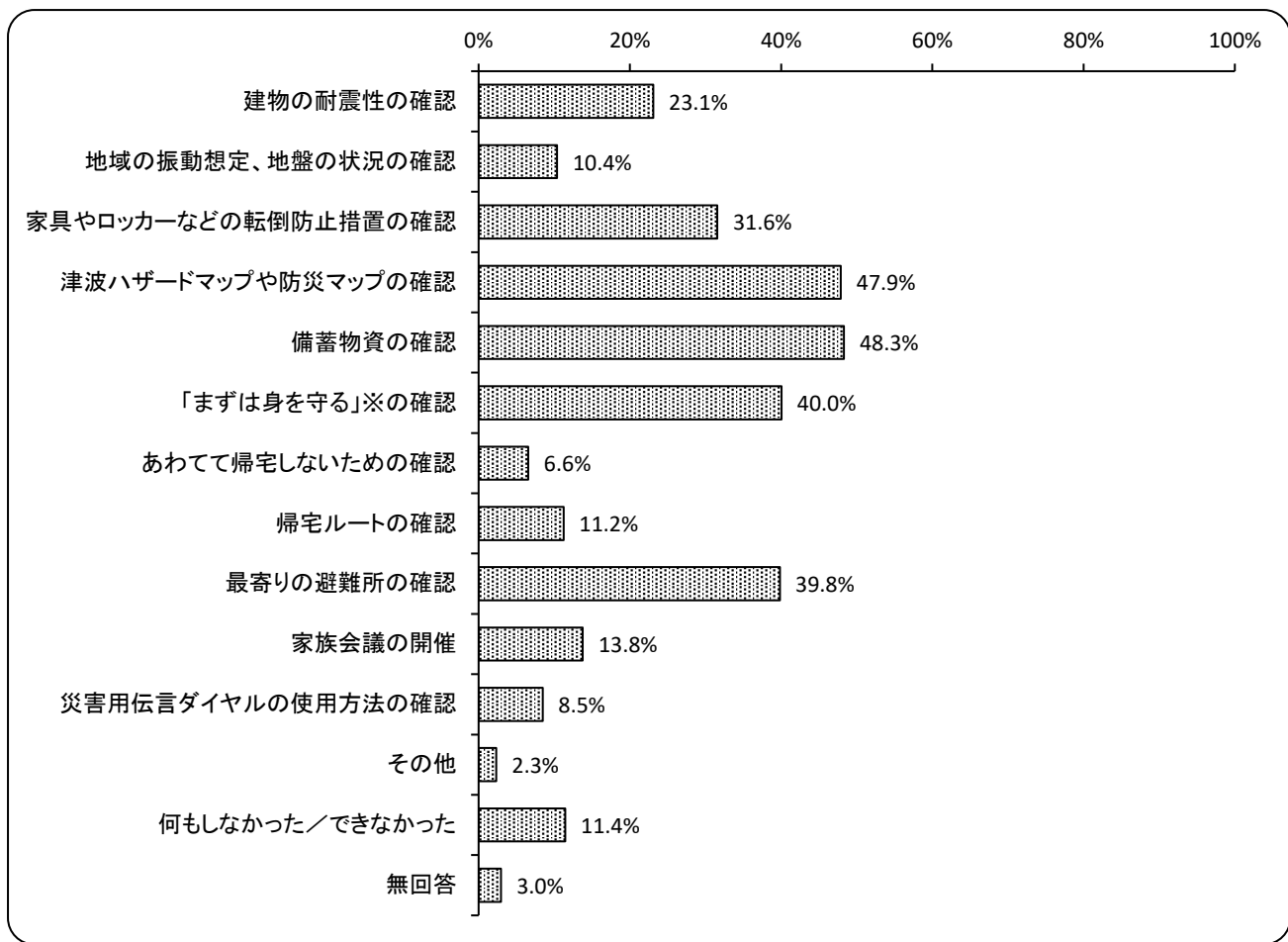
●屋外では…

- ・落下物や倒壊するものに注意する
- ・狭い路地に入らない
- ・路上よりは頑丈なビルの中へ

[12 その他]

【主な回答】

- 家族と集合場所の確認

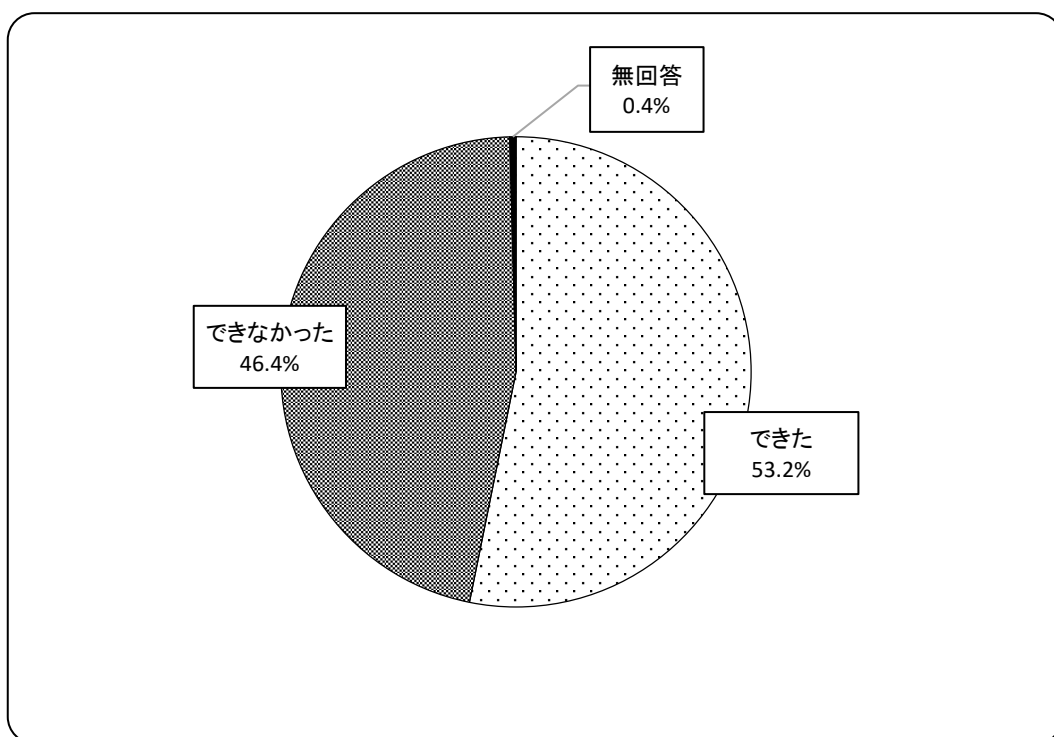


《訓練開始合図の覚知率》

問 6. 当日、午前 9 時 30 分の訓練開始の合図※を受け取ることができましたか。 【選択は 1 つ】

訓練開始合図を受け取ることが「できた」と回答された方は 53.2%と昨年度調査の 49.0%より 4.2%増加している。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	できた	251	53.2%
2	できなかった	219	46.4%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%





《訓練開始合図の媒体・経路》

問7. 問6で「1 できた」と回答された方に伺います。

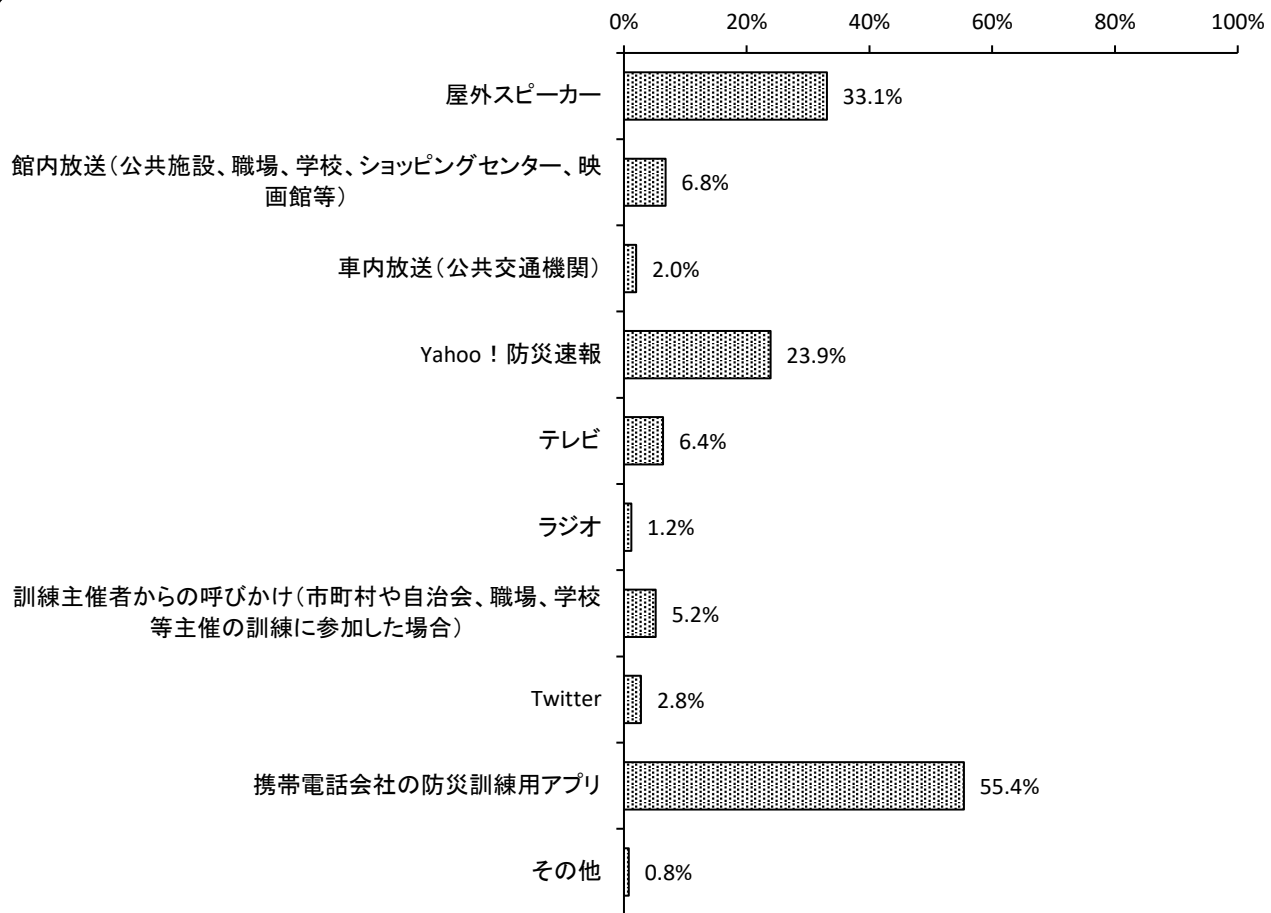
訓練開始の合図はどのような媒体・経路で受け取ることができましたか。

★緊急速報メールは訓練開始の合図ではありません。

【複数回答可：いくつでも】

「携帯電話会社の防災訓練用アプリ」で訓練開始合図を受け取ることができたと回答された方が55.4%となり、昨年度調査の53.7%と同様もっとも割合が高い結果となった。

	選択項目 (N=251)	回答数	構成比
1	屋外スピーカー	83	33.1%
2	館内放送 (公共施設、職場、学校、ショッピングセンター、映画館等)	17	6.8%
3	車内放送 (公共交通機関)	5	2.0%
4	Yahoo! 防災速報	60	23.9%
5	テレビ	16	6.4%
6	ラジオ	3	1.2%
7	訓練主催者からの呼びかけ (市町村や自治会、職場、学校等主催の訓練に参加した場合)	13	5.2%
8	Twitter	7	2.8%
9	携帯電話会社の防災訓練用アプリ	139	55.4%
10	その他	2	0.8%
	計 (回答総数)	345	137.5%



《訓練開始合図後の参加率》

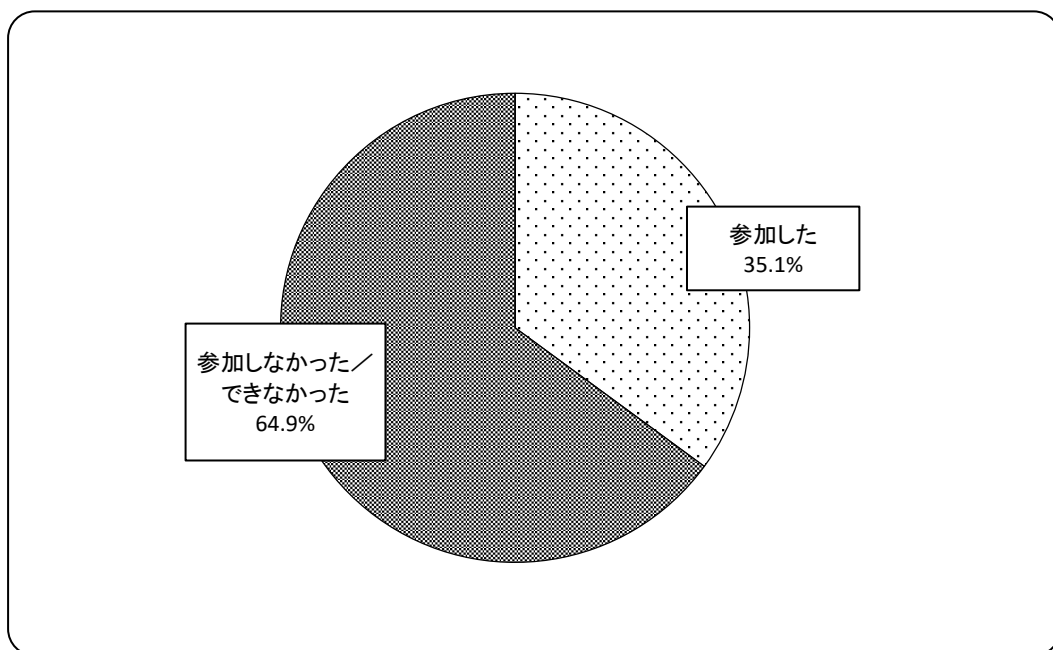
問 8. 問 6 で「1 できた」と回答された方に伺います。

訓練開始の合図を受け取った後、あなたは「大阪 880 万人訓練」に参加※しましたか。

※「参加」とは、市町村、自治会、職場、学校等が主催する避難訓練等に参加することや、個人的に避難行動をとることだけでなく、ひとりで頭の中で地震が起こった場合の状況や対応をイメージするだけのことも含みます。 【選択は1つ】

「参加した」と回答した方が 35.1%と昨年度調査の 32.3%と同程度の割合であり、継続して啓発や周知活動を行う必要がある。

	選択項目 (N=251)	回答数	構成比
1	参加した	88	35.1%
2	参加しなかった／できなかった	163	64.9%
	計 (回答総数)	251	100.0%



《訓練開始合図後の行動》

問9. 問8で「1 参加した」と回答された方に伺います。

訓練開始の合図を受け取った後、あなたはどのようなことをしましたか。

【複数回答可：いくつでも】

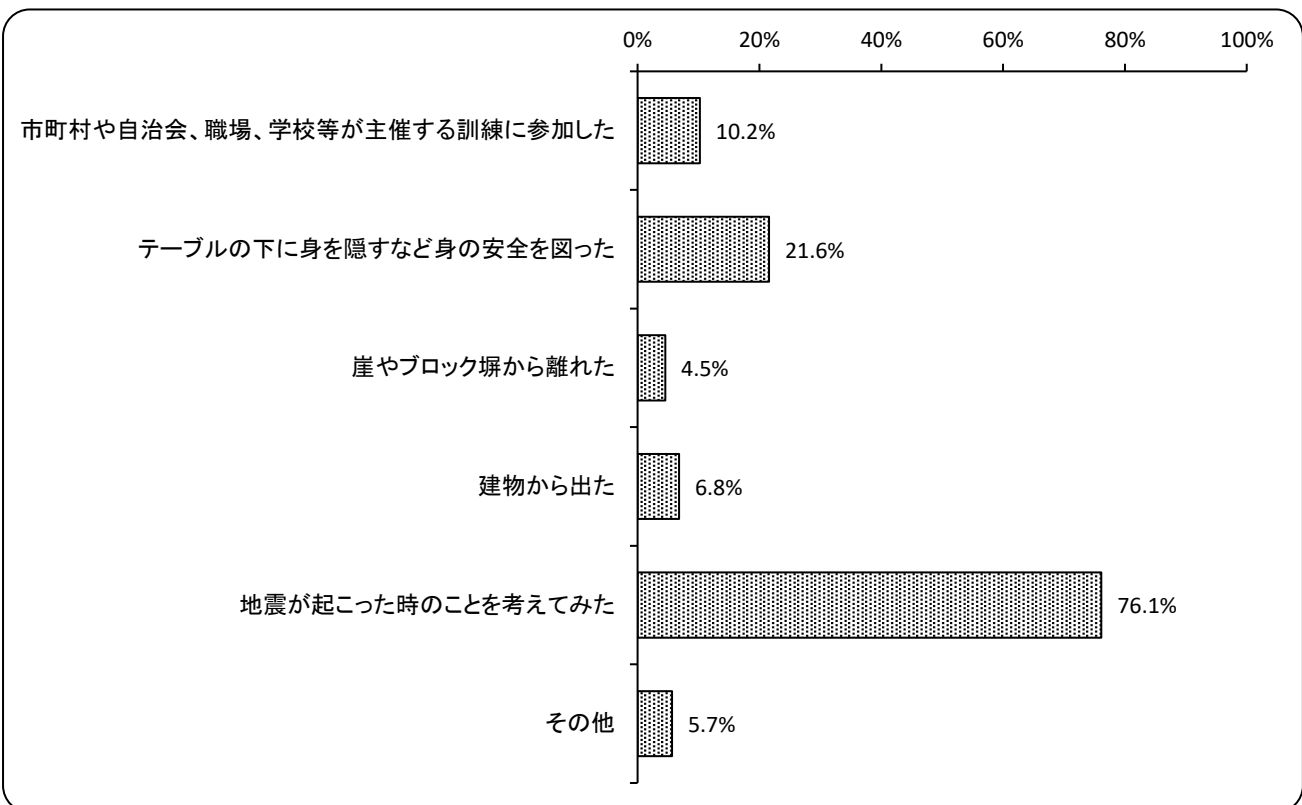
「地震が起こった時のことを考えてみた」という、実際の行動を伴わない回答の割合が76.1%と最も高かった。しかし、身を守る行動をとるなど実際の行動を伴うものは実施率が比較的低いので、今後の検討課題である。

	選択項目 (N=88)	回答数	構成比
1	市町村や自治会、職場、学校等が主催する訓練に参加した	9	10.2%
2	テーブルの下に身を隠すなど身の安全を図った	19	21.6%
3	崖やブロック塀から離れた	4	4.5%
4	建物から出た	6	6.8%
5	地震が起こった時のことを考えてみた	67	76.1%
6	その他	5	5.7%
	計 (回答総数)	110	125.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 職場で同僚と地震対策について話をした。
- 非常食等の点検



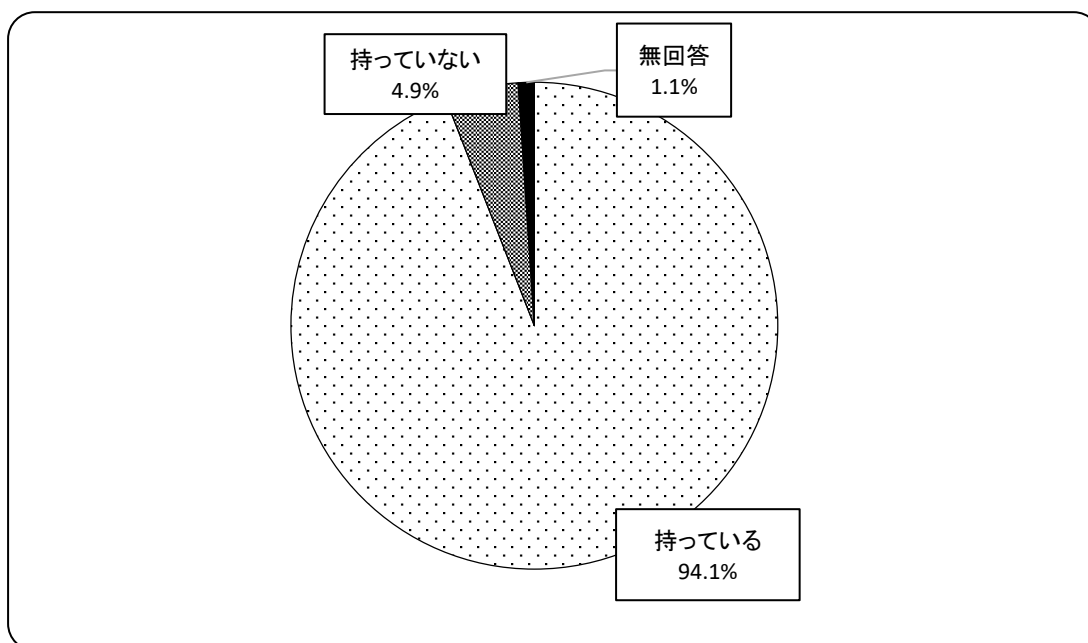
《携帯電話及びスマートフォンの所持率》

問 10. あなたは携帯電話またはスマートフォンを持っていますか。

【選択は1つ】

携帯電話またはスマートフォンを持っていないと回答した方の割合が 4.9%であることから、今後も継続してこれらの媒体を使用しない情報発信方法について検討する必要がある。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	持っている	444	94.1%
2	持っていない	23	4.9%
	無回答	5	1.1%
	計 (回答総数)	472	100.0%

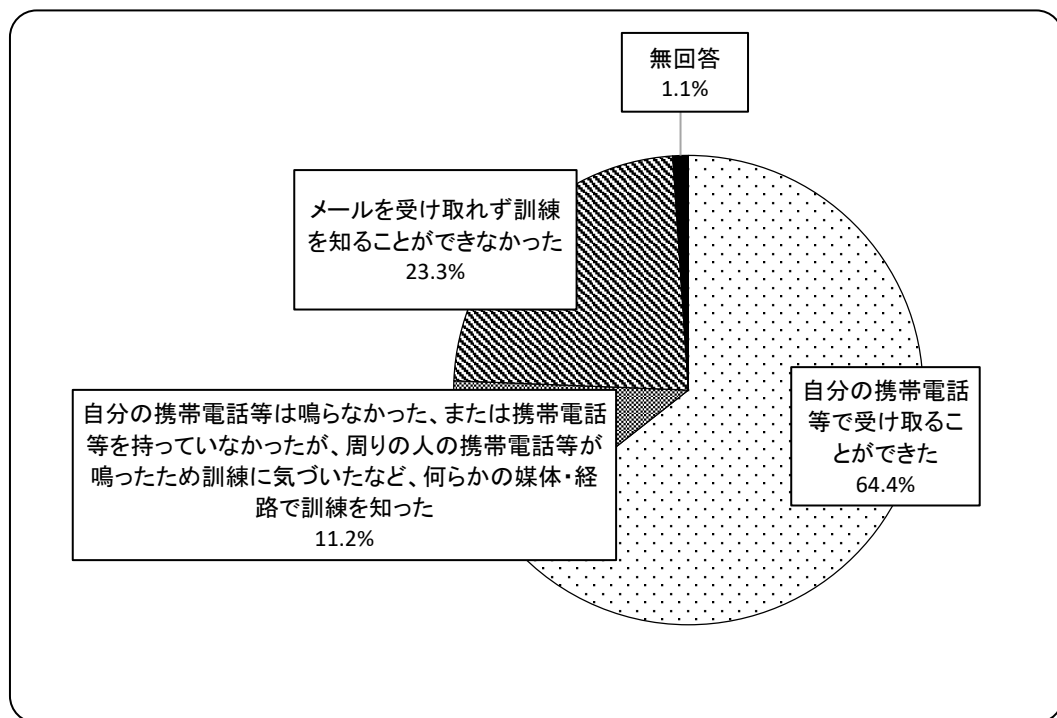


《緊急速報メール伝達率》

問 11. 当日、9 時 33 分と 9 時 35 分に、携帯電話やスマートフォンに向けて緊急速報メールを配信しましたが、受け取ることができましたか。 【選択は 1 つ】

「自分の携帯電話で受け取ることができた」が 64.4%、「自分の携帯電話等は鳴らなかった、または携帯電話等を持っていなかったが、周りの人の携帯電話等が鳴ったため訓練に気づいたなど、何らかの媒体・経路で訓練を知った」が 11.2%で、緊急速報メールによる情報伝達が有効な手段であることが確認できる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	自分の携帯電話等で受け取ることができた	304	64.4%
2	自分の携帯電話等は鳴らなかった、または携帯電話等を持っていなかったが、周りの人の携帯電話等が鳴ったため訓練に気づいたなど、何らかの媒体・経路で訓練を知った	53	11.2%
3	メールを受け取れず訓練を知ることができなかった	110	23.3%
	無回答	5	1.1%
	計 (回答総数)	472	100.0%



《緊急速報メール配信後の参加率》

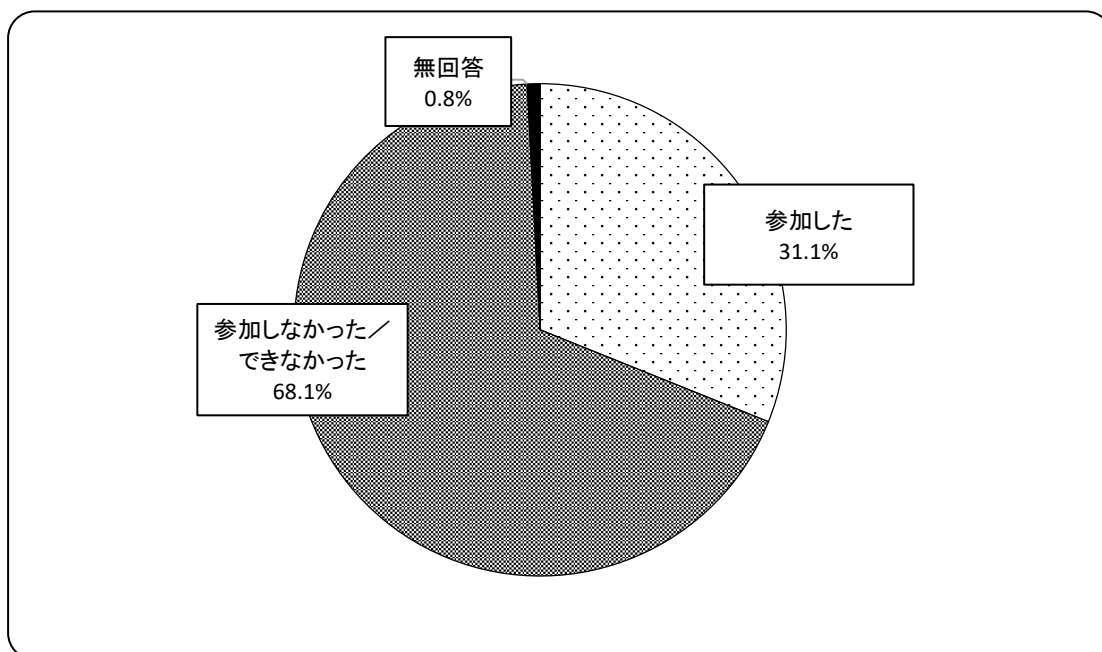
問 12. 問 11 で「1 受け取ることができた」または「2 何らかの媒体・経路で訓練を知った」と回答された方に伺います。

緊急速報メールを受け取った後、あなたは「大阪 880 万人訓練」に参加※しましたか。

※「参加」とは、市町村、自治会、職場、学校等が主催する避難訓練等に参加することや、個人的に避難行動をとることだけでなく、ひとりで頭の中で地震や津波が起こった場合の状況や対応をイメージするだけのことも含みます。 【選択は1つ】

緊急速報メールを受信したが、訓練に参加しなかった/できなかった方が 68.1%と、広報紙等の事前周知手段の内容や緊急速報メールの文言を検討し、引き続き訓練参加を呼びかけていきたい。

	選択項目 (N=357)	回答数	構成比
1	参加した	111	31.1%
2	参加しなかった/できなかった	243	68.1%
	無回答	3	0.8%
	計 (回答総数)	357	100.0%



《緊急速報メール配信後の行動》

問 13. 問 12 で「1 参加した」と回答された方に伺います。

緊急速報メールを受け取った後、あなたはどのようなことをしましたか。

【複数回答可：いくつでも】

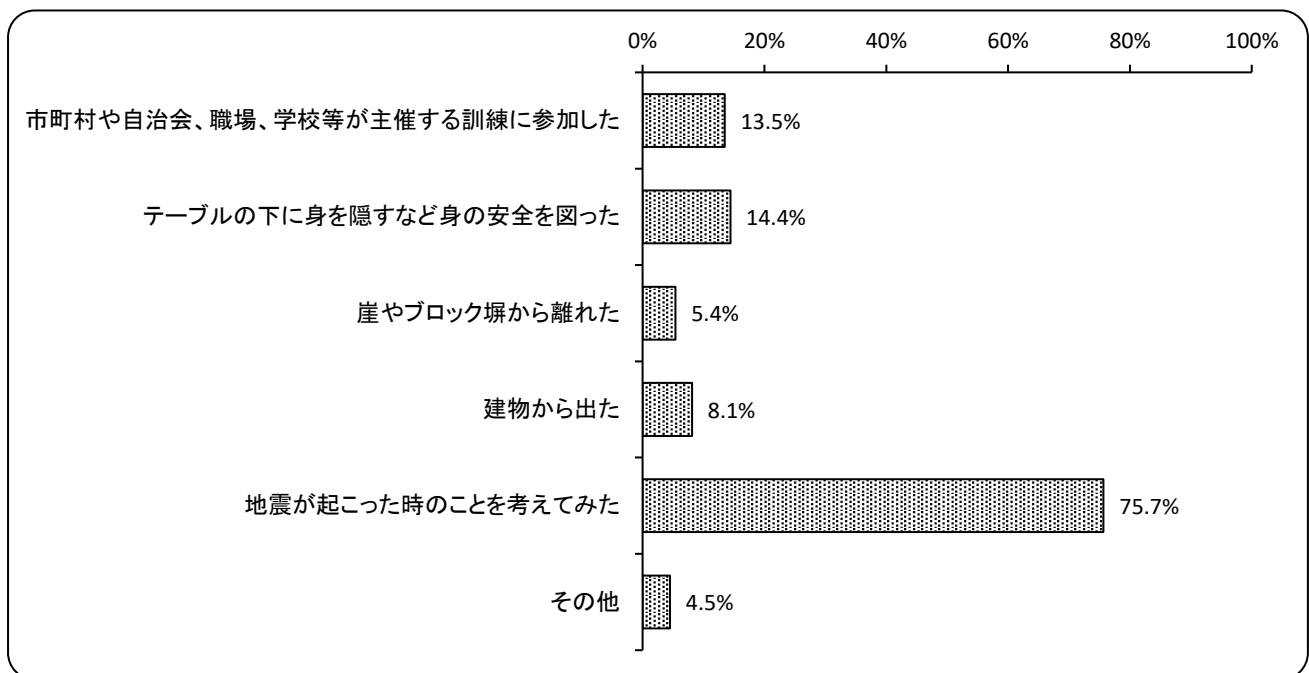
「地震が起こった時のことを考えてみた」と実際の行動を伴わない回答の割合が 75.7%と最も高かったが、身を守る行動をとるなど実際の行動を伴うものは割合が比較的低い結果となっている。実際の行動が伴う訓練等が今後の検討課題である。

	選択項目 (N=111)	回答数	構成比
1	市町村や自治会、職場、学校等が主催する訓練に参加した	15	13.5%
2	テーブルの下に身を隠すなど身の安全を図った	16	14.4%
3	崖やブロック塀から離れた	6	5.4%
4	建物から出た	9	8.1%
5	地震が起こった時のことを考えてみた	84	75.7%
6	その他	5	4.5%
	計 (回答総数)	135	121.6%

[6 その他]

【主な回答】

- 防災グッズの点検





《訓練不参加の理由》

問 14. 問 12 で「2 参加しなかった／できなかった」と回答された方に伺います。

「大阪 880 万人訓練」に参加しなかった、または参加できなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

なお、「7 無意味なものだと思った」と回答された方は、そのように思われた理由を併せてお答えください。 【複数回答可：いくつでも】

「忙しかった/仕事中だった/取り込み中だった」が 58.8%で最も割合が高かった。平日の日中の実施であるため、やむをえないが、仕事中でも参加できるよう民間企業への啓発を検討する。

	選択項目 (N=243)	回答数	構成比
1	緊急速報メールの着信確認ができればそれでいいと思った／思っていた	96	39.5%
2	「大阪 880 万人訓練」は市町村や自治会、職場、学校等が主催する避難訓練等のことだと思っていたので、自分には関係ないと思っていた	18	7.4%
3	災害の状況や対応をイメージするだけでも「訓練」となるという認識がなかった	28	11.5%
4	忙しかった／仕事中だった／取り込み中だった	143	58.8%
5	面倒だった	14	5.8%
6	訓練を忘れていた	5	2.1%
7	無意味なものだと思った	1	0.4%
8	その他	26	10.7%
	計 (回答総数)	331	136.2%

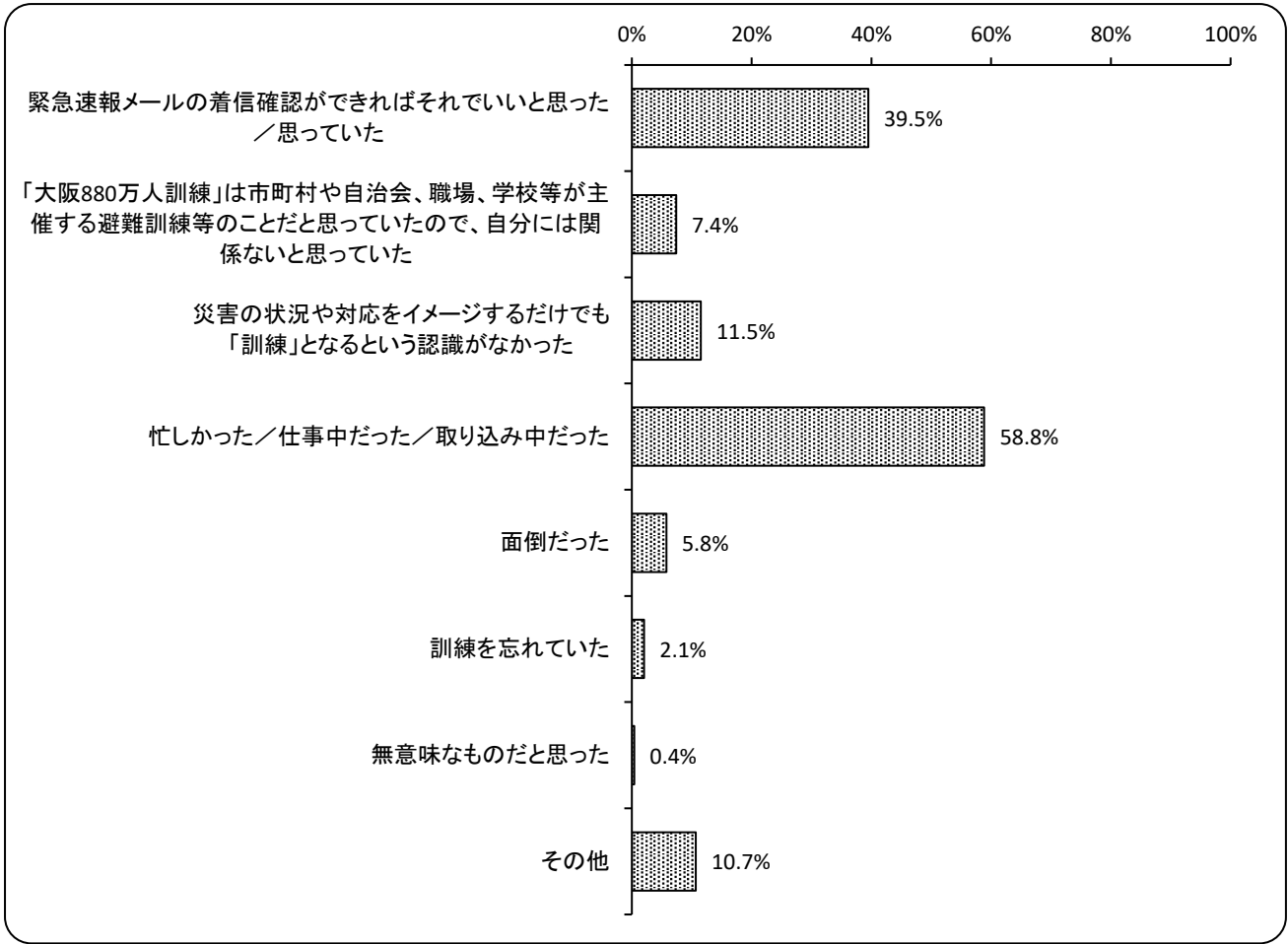
[7 無意味なものだと思った理由]

- 仕事中のため何もしなかったから

[8 その他]

【主な回答】

- 体調が悪かった。
- 府内にいなかった。
- 職場の指示



《複数の緊急速報メール配信への意見》

問 15. 今回の訓練では、9時33分に大阪府から府全域へ、また、9時35分に堺市から市全域へ緊急速報メールの配信を行いました。訓練の際、複数の自治体から緊急速報メールを発信することについて、あなたのお考えに最も近いものを1つ選択してください。 【選択は1つ】

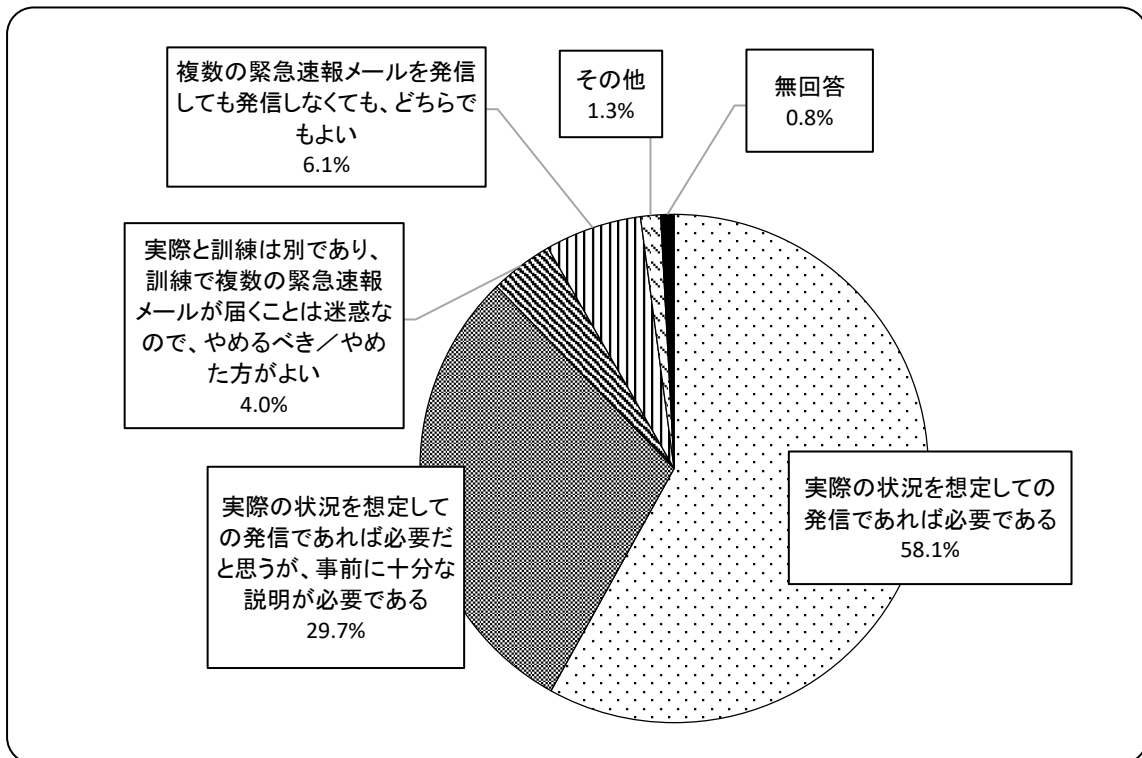
実際の状況を想定しての発信であれば必要とする方（項目1と2を選んだ方の合計）が87.8%と高い割合であり、今後も大阪880万人訓練における緊急速報メールの複数配信を継続していく。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	実際の状況を想定しての発信であれば必要である	274	58.1%
2	実際の状況を想定しての発信であれば必要だと思うが、事前に十分な説明が必要である	140	29.7%
3	実際と訓練は別であり、訓練で複数の緊急速報メールが届くことは迷惑なので、やめるべき/やめた方がよい	19	4.0%
4	複数の緊急速報メールを発信しても発信しなくても、どちらでもよい	29	6.1%
5	その他	6	1.3%
	無回答	4	0.8%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[5 その他]

【主な回答】

- 内容が同じであれば配信は1通（府または市）でいい。



《この訓練をきっかけにして実施した備え》

問 16. この訓練をきっかけにして確認したことをお答えください。 【複数回答可：いくつでも】

「備蓄物資の確認」(38.3%)、「『まずは身を守る』の確認」(33.3%)、「津波ハザードマップや防災マップの確認」(30.9%)の項目について、それぞれ30%以上の方がこの訓練をきっかけにして確認したと回答しており、本訓練は自助意識の向上に寄与しているといえる。

一方、「何もしなかった/できなかった」が25.6%と昨年度調査の26.6%と同程度の割合であるため、今後も事前対策の重要性について啓発をすすめる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	建物の耐震性の確認	68	14.4%
2	地域の振動想定、地盤の状況の確認	41	8.7%
3	家具やロッカーなどの転倒防止措置の確認	114	24.2%
4	津波ハザードマップや防災マップの確認	146	30.9%
5	備蓄物資の確認	181	38.3%
6	「まずは身を守る」※の確認	157	33.3%
7	あわてて帰宅しないための確認	36	7.6%
8	帰宅ルートの確認	42	8.9%
9	最寄りの避難所の確認	126	26.7%
10	家族会議の開催	68	14.4%
11	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	42	8.9%
12	その他	9	1.9%
13	何もしなかった/できなかった	121	25.6%
	無回答	4	0.8%
	計 (回答総数)	1,155	244.7%

※「まずは身を守る」

●屋内では…

- ・机の下にもぐる、頭を保護する
- ・出口に殺到せず、落ち着いて避難
- ・エレベーターは使わず、階段で避難

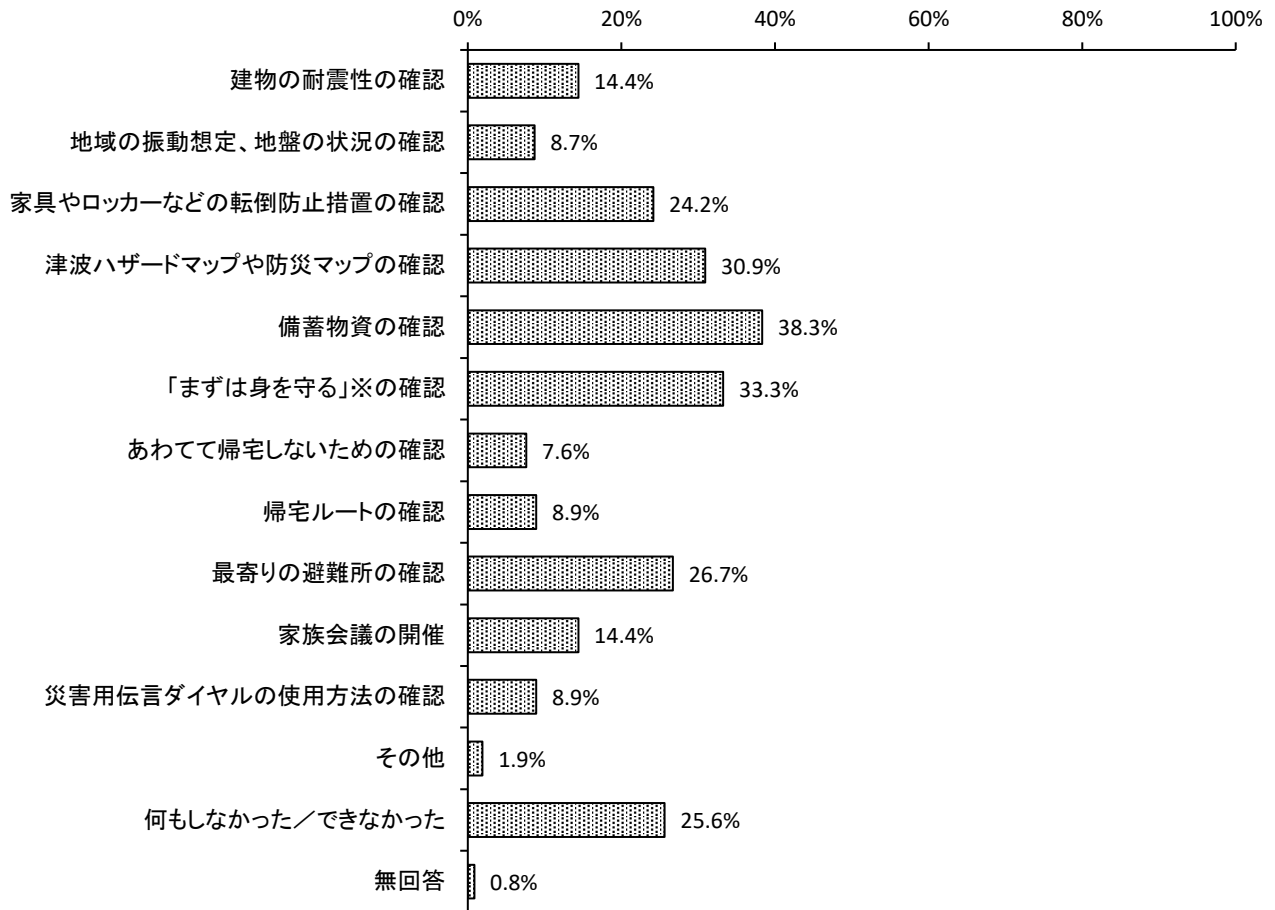
●屋外では…

- ・落下物や倒壊するものに注意する
- ・狭い路地に入らない
- ・路上よりは頑丈なビルの中へ

[12 その他]

【主な回答】

- 自宅以外で罹災した時の家族との連絡方法
- ペットの備蓄品・避難用品の確認



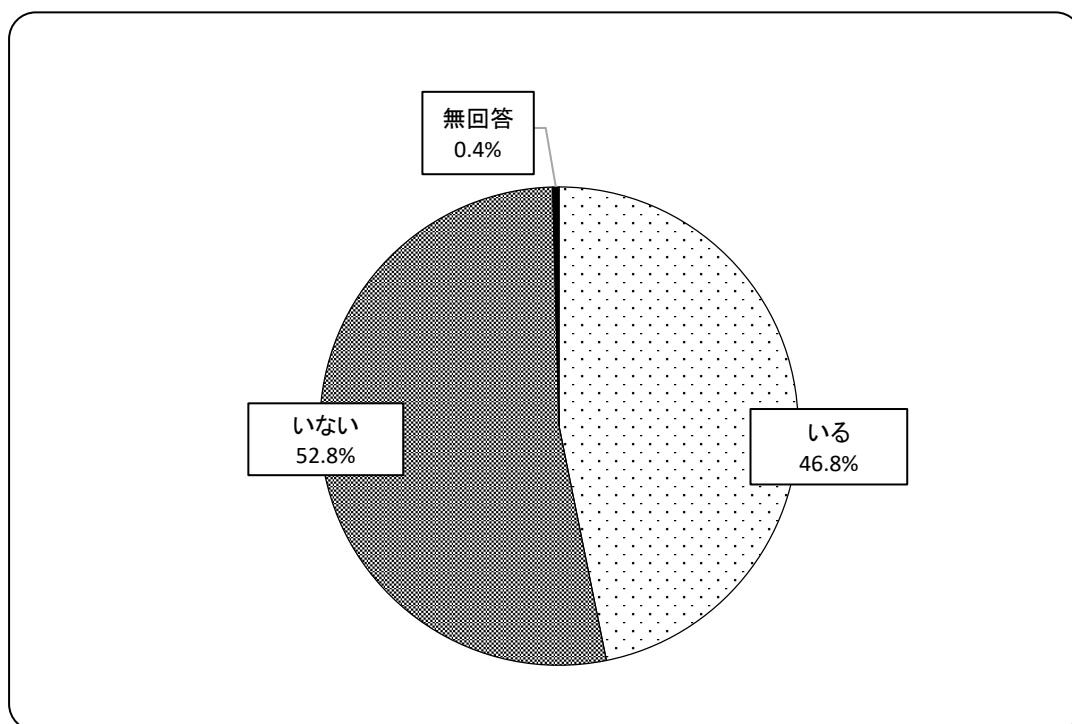
《避難行動要支援者の有無》

問 17. 高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等、災害が発生または発生するおそれがある場合に自ら必要な情報を迅速かつ的確に把握し、避難することが困難で、特に支援を必要とする方を「避難行動要支援者」といいます。あなたの身近には、「避難行動要支援者」の方がおられますか。

【選択は1つ】

避難行動要支援者が身近にいるという方は46.8%と、昨年度調査の41.3%から増加している。今後も少子高齢化や核家族化によって、この割合が増加することが予想される。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	いる	221	46.8%
2	いない	249	52.8%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%



《避難行動要支援者への情報伝達》

問 18. 問 17 で「1 いる」と回答された方に伺います。

実際に災害が発生した場合、あなたの身近におられる「避難行動要支援者」の方へどなたが情報を伝えると思いますか。  
【複数回答可：いくつでも】

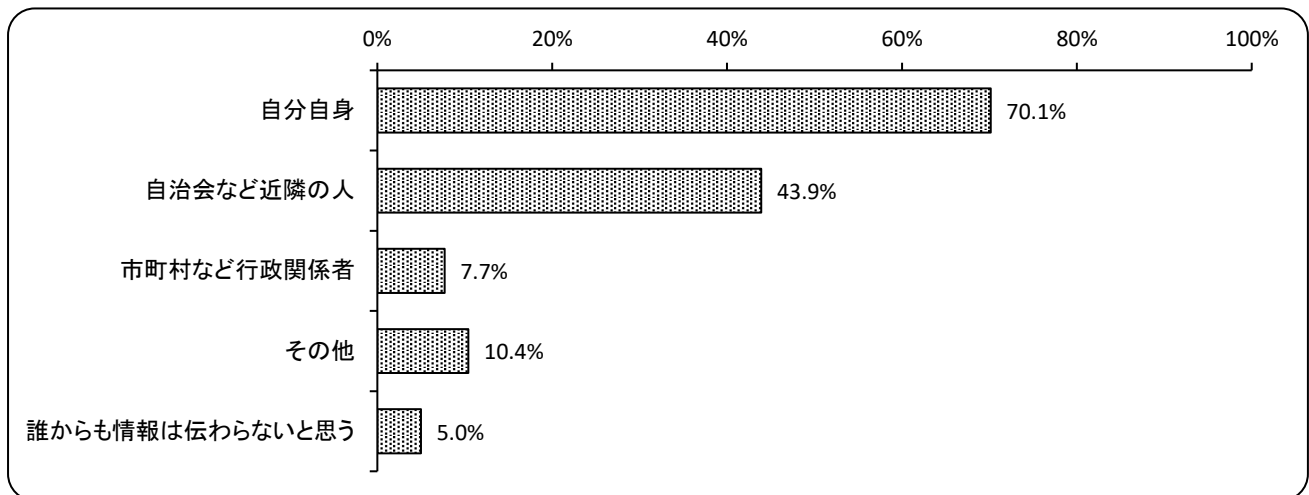
「自分自身」が 70.1%、「自治会など近隣の人」が 43.9%と共助の重要性の認識が浸透していると考えられる。

	選択項目 (N=221)	回答数	構成比
1	自分自身	155	70.1%
2	自治会など近隣の人	97	43.9%
3	市町村など行政関係者	17	7.7%
4	その他	23	10.4%
5	誰からも情報は伝わらないと思う	11	5.0%
	計 (回答総数)	303	137.1%

[4 その他]

【主な回答】

- 職場
- 家族

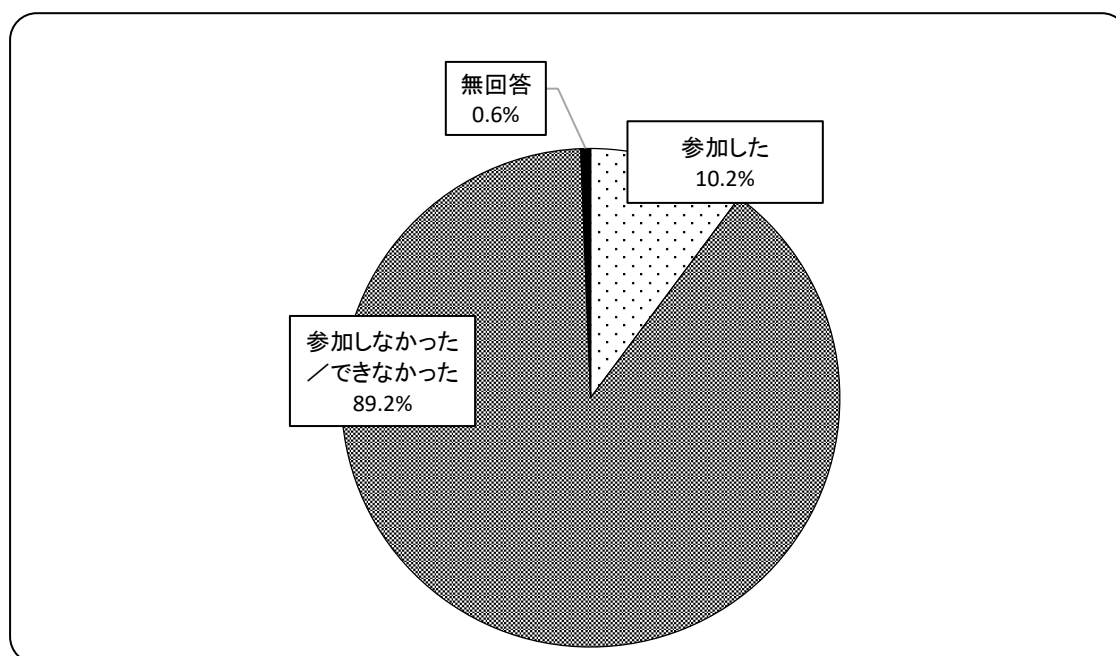


《連動訓練への参加状況》

問 19. この訓練の当日あるいはその前後に、自治会、職場・学校等が主催する避難訓練などに参加しましたか。 【選択は1つ】

「参加した」と回答した方は10.2%と、昨年度調査の16.1%から5.9%減少している。これは新型コロナウイルスの感染対策のため、訓練を自粛した団体も多数あったことが一因と推測される。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	参加した	48	10.2%
2	参加しなかった／できなかった	421	89.2%
	無回答	3	0.6%
	計 (回答総数)	472	100.0%





《連動訓練の主体》

問 20. 問 19 で「1 参加した」と回答された方に伺います。

どこが主催する訓練ですか。

【複数回答可：いくつでも】

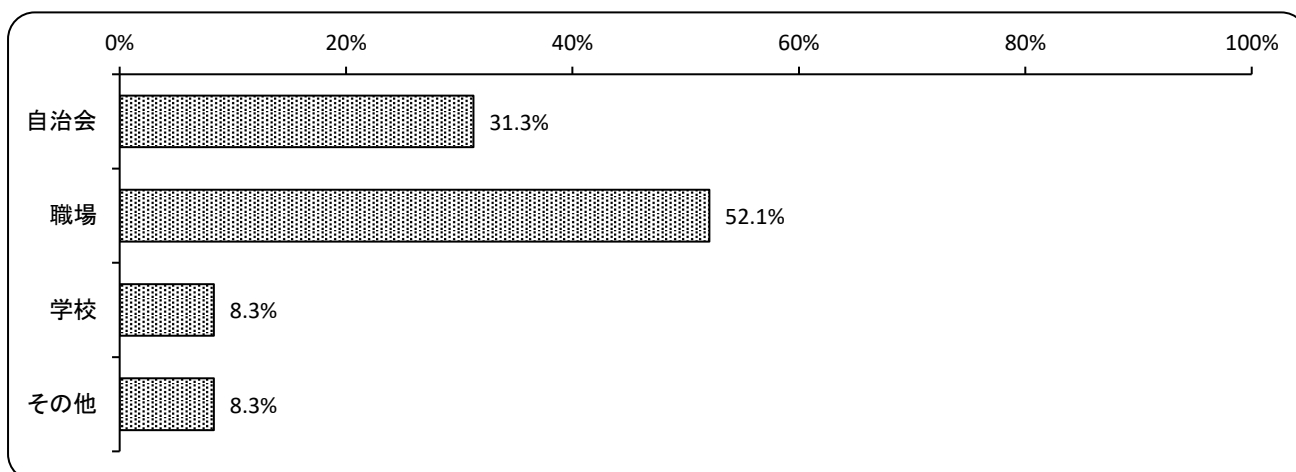
「職場」の訓練に参加したと回答した方が 52.1%と最も割合が高く、平日の日中の訓練であるため、職場での訓練が実施しやすく、また、参加しやすかったものと思われる。

	選択項目 (N=48)	回答数	構成比
1	自治会	15	31.3%
2	職場	25	52.1%
3	学校	4	8.3%
4	その他	4	8.3%
	計 (回答総数)	48	100.0%

[4 その他]

【主な回答】

- 居住する集合住宅の管理組合



《連動訓練の内容》

問 21. 問 19 で「1 参加した」と回答された方に伺います。

その訓練の内容は、次のうちどれにあたりますか。

【複数回答可：いくつでも】

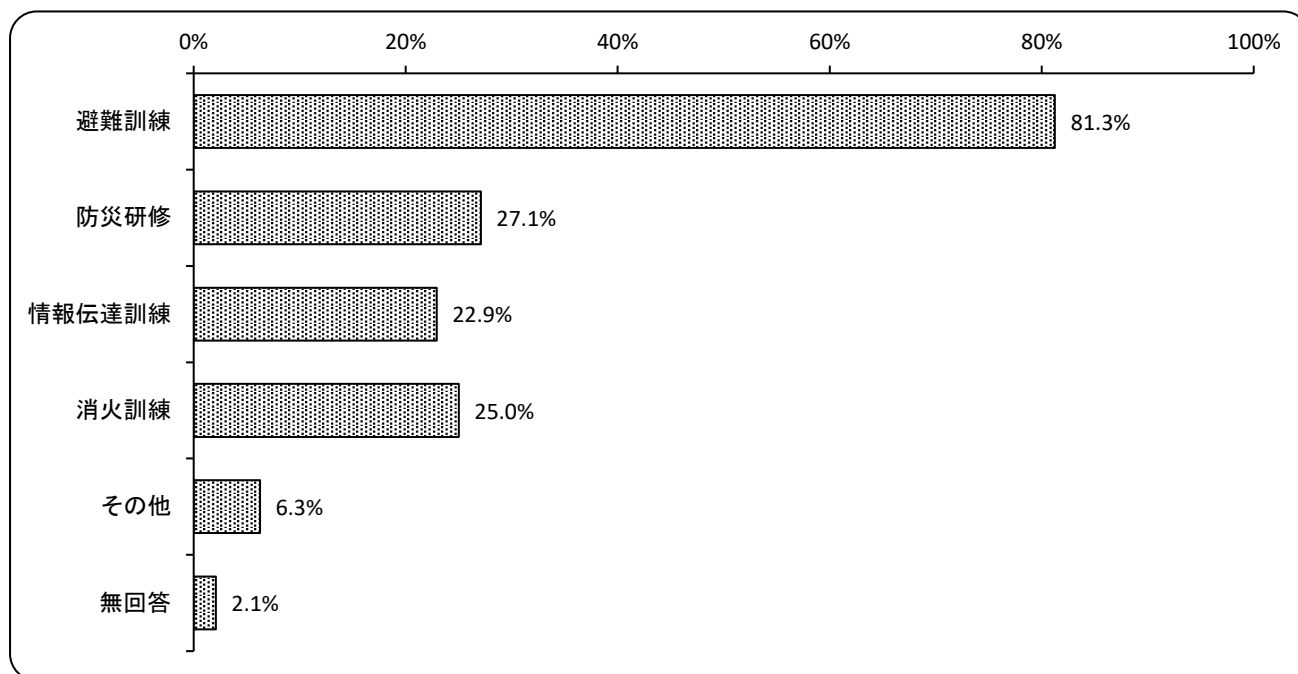
「避難訓練」が 81.3%と最も割合が高く、実施しやすい避難訓練が訓練内容として採用しやすいことがうかがわれる。

	選択項目 (N=48)	回答数	構成比
1	避難訓練	39	81.3%
2	防災研修	13	27.1%
3	情報伝達訓練	11	22.9%
4	消火訓練	12	25.0%
5	その他	3	6.3%
	無回答	1	2.1%
	計 (回答総数)	79	164.6%

[5 その他]

【主な回答】

- AED 訓練
- 段ボールベッドの組み立て、簡易トイレの組み立て



《連動訓練の開催場所》

問 22. 問 19 で「参加した」と回答された方に伺います。

どこで訓練に参加されましたか。

【複数回答可：いくつでも】

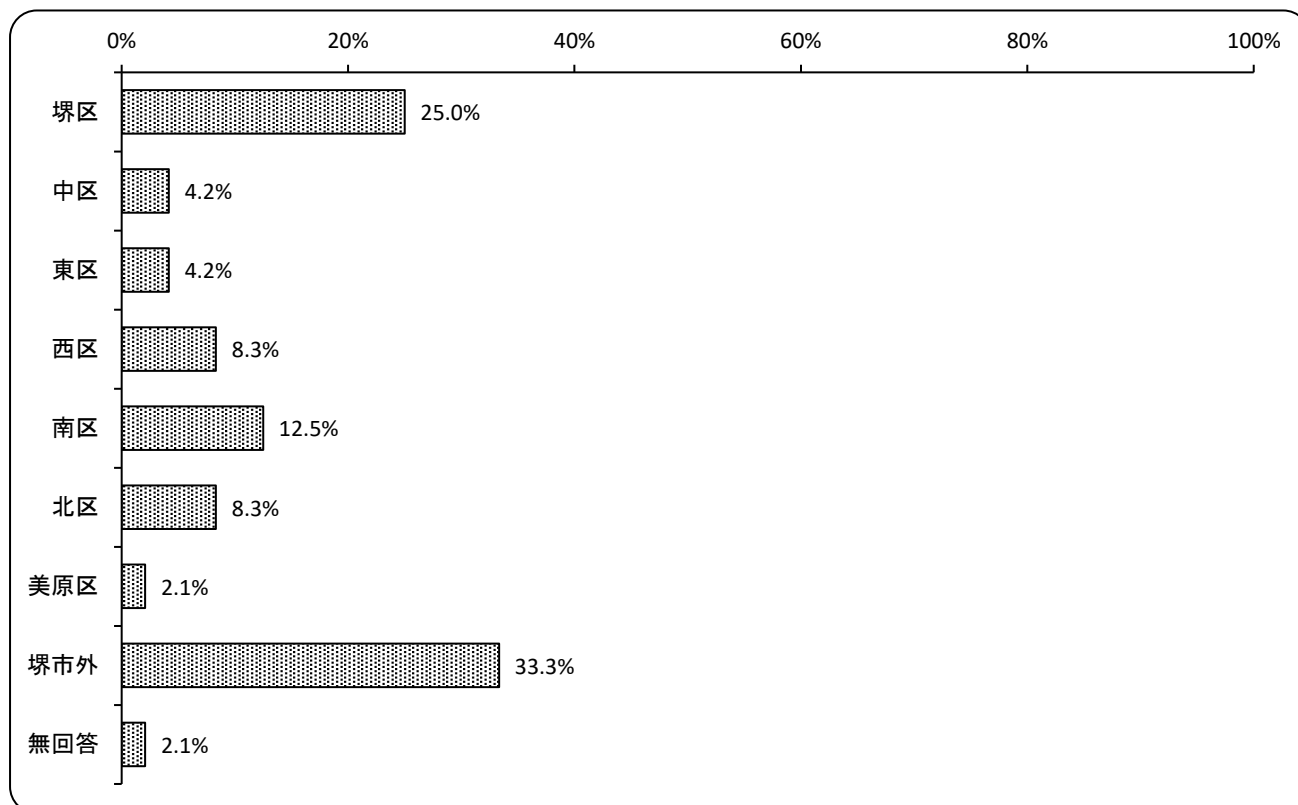
すべての区で参加したとの回答があり、各区で連動訓練が実施されていたことが確認された。

	選択項目 (N=48)	回答数	構成比
1	堺区	12	25.0%
2	中区	2	4.2%
3	東区	2	4.2%
4	西区	4	8.3%
5	南区	6	12.5%
6	北区	4	8.3%
7	美原区	1	2.1%
8	堺市外	16	33.3%
	無回答	1	2.1%
	計 (回答総数)	48	100.0%

[8 堺市外]

【主な回答】

- 大阪府内（大阪市、大阪狭山市 等）
- 大阪府外（和歌山県）

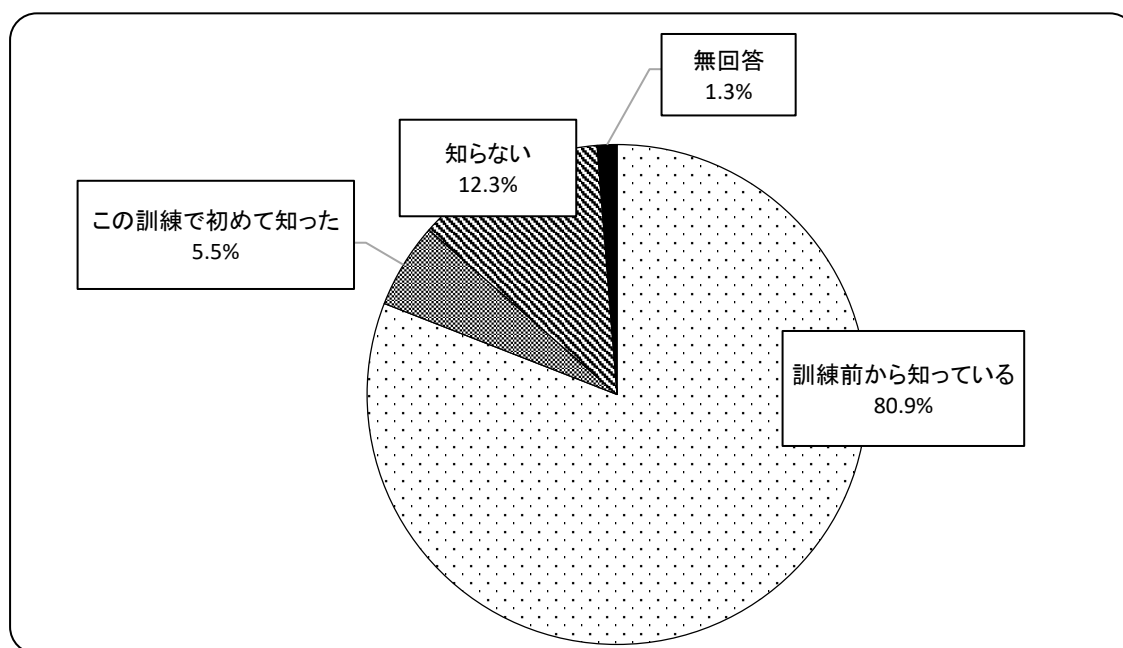


《緊急地震速報の認知度》

問 23. 緊急地震速報がエリアメール／緊急速報メールによって個人の携帯電話やスマートフォンに配信されることを知っていますか。 【選択は1つ】

「訓練前から知っている」という方は80%以上で、緊急地震速報の認知が進んでいることがうかがえる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	訓練前から知っている	382	80.9%
2	この訓練で初めて知った	26	5.5%
3	知らない	58	12.3%
	無回答	6	1.3%
	計 (回答総数)	472	100.0%

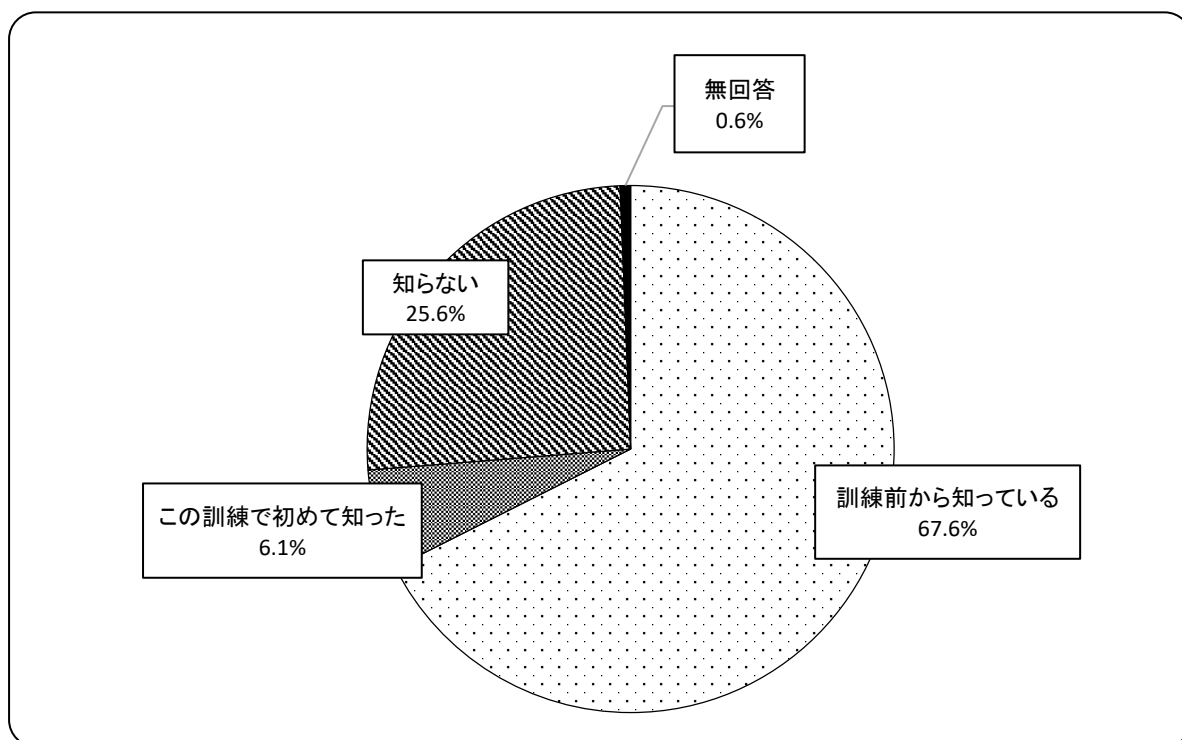


《緊急地震速報の理解度》

問 24. 南海トラフ巨大地震の場合、大阪では実際に揺れ始める数秒～数十秒前に緊急地震速報が鳴ることを知っていますか。 【選択は1つ】

「訓練前から知っている」と回答された方が67.6%と、昨年度調査の60.2%から増加しているが、「この訓練で初めて知った」、「知らない」と回答された方の割合が31.7%と高いため、今後も緊急地震速報の普及に努める。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	訓練前から知っている	319	67.6%
2	この訓練で初めて知った	29	6.1%
3	知らない	121	25.6%
	無回答	3	0.6%
	計 (回答総数)	472	100.0%



《訓練開始時間》

問 25. 「災害はいつ起こるか分からない。」との考えから、訓練開始時刻が今後も変更される可能性があります。

あなたが訓練に参加しようと考えられた場合、参加するのにご都合の良い訓練開始の時間帯をお答えください。 【選択は1つ】

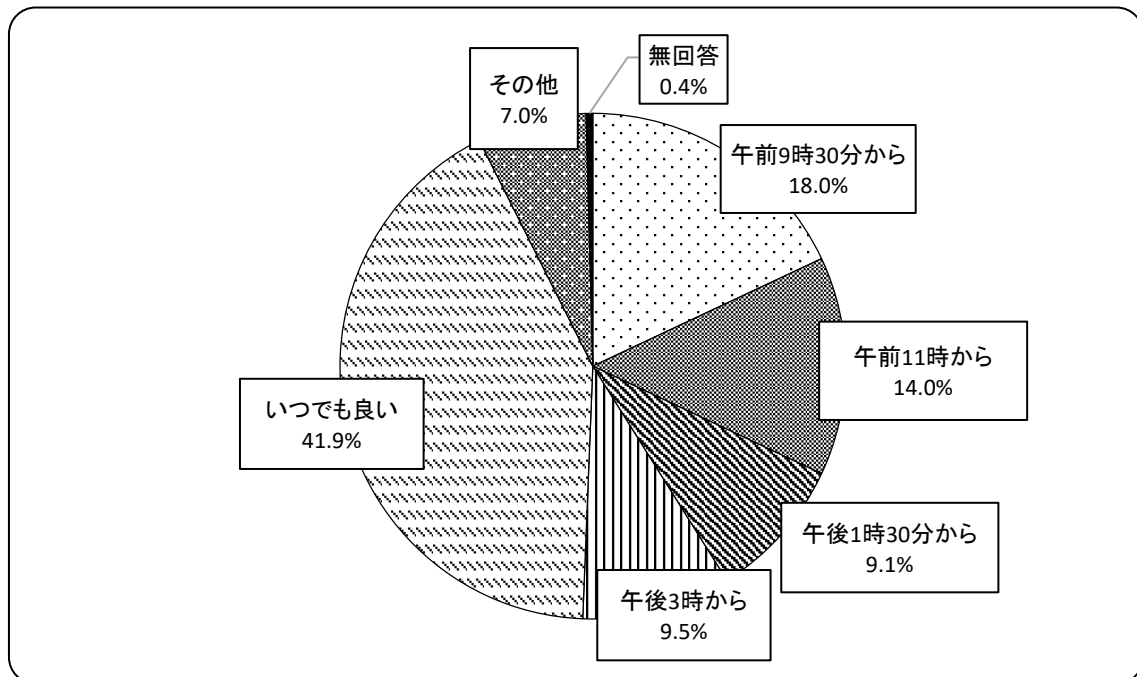
訓練開始時間について、「いつでも良い」と回答された方が41.9%、次いで「午前9時30分から」が18.0%、「午前11時から」が14.0%と、午前中の開始を希望される方が多かった。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	午前9時30分から	85	18.0%
2	午前11時から	66	14.0%
3	午後1時30分から	43	9.1%
4	午後3時から	45	9.5%
5	いつでも良い	198	41.9%
6	その他	33	7.0%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 土日祝、平日の夜
- 夜中などは困るがいつでも良い
- 日によって都合の良い時間帯が違う



【事前通知、訓練通知について】

- 訓練は必要だが、スマートフォン・携帯電話以外の通知方法をもっと考えてほしい。
- 事前にわかるように、放送車で巡回してほしい。
- スピーカーから流れる音声を聞いても、特に家の中にいると何を放送しているかほとんどわからない。
- 事前に、訓練日時を周知徹底してほしい。そのために、もっと広報をする必要がある。
- 事前通知をもう少しわかりやすくしてほしい。
- 訓練は前もって連絡がほしい。その際に色々と確認が出来て、実際の場合の備えになる。また、会社や企業も一緒にならないと、工場等の現場では責任者以外はスマートフォンや携帯電話を所持していないため、訓練参加がむずかしい。
- 配信メールが届いたり届かなかったりしている。ニュース等で一斉訓練は知っていても実際に届かなかったらいつのまにか終わっている... という事もあった。なぜメールが届いてないのか等の分析調査をしっかりと実施し、次への対応をしっかりと組んでいかなければならないと感じる。
- 屋外にいとスピーカーの音は聞こえるが、何を言っているかわからない。
- 携帯電話は持ってはいるが、自宅にいるときは電源を切っている。自宅にいるとスピーカーがよく聞こえるが、毎日のようにスピーカーの放送があるので、聞き流してしまうことが多い。スピーカーの放送を月に 2 回ぐらいにしてくれると、もう少し緊張感を持って耳を傾けられると思う。

【訓練の実施について】

- 平日はどうしても仕事があり参加が出来ないので、土日祝のいずれかで訓練を実施してほしい。
- いつも午前中に行われるので、家族とすごしている夜や休日に訓練も行ったほうが、家族で防災について考えることができると思う。
- 平日実施の年と、土日に実施の年を交互に組み合わせるなど、多様な形で実施してほしい。
- 同時間で行うより、毎年訓練するのであれば時間帯を変えて行う方が良いと思う。

【訓練について】

- メール受信だけで訓練になっていないように思う。
- 本当に意味があるのかわからない。みんなそこまで重要に思っていないと思う。
- 目先の結果だけに一喜一憂するのではなく、地道にこの運動をすすめていく必要があると思う。
- 訓練の主催者の熱意が感じられない。避難訓練は大切だが、仕事との兼合いもあるので、そういう事情も考慮してほしい。どうしても参加が必要ならば企業への協力依頼をすべきと思う。
- 大切だし必要だと思う。実際に行動を起こして何かすることはできなかったが、このような訓練があること自体が、非常時のことを考え、家族でいざというときのためのシミュレーションをすることもでき、良い機会だと思う。

- 年に一度、こうやって意識することは大事だと思う。何か一つでも行動をおこしていれば、もっと良いと思う。
- 今後の実施方法を時代に合わせて変更し、また外国人や障害のある方、高齢者も参加しやすいように変えていくべきだと思う。
- 災害は突然発生するため、定期的に災害に備えて訓練を実施して、個人個人の意識を高めるようにする事は良いと思う。
- 訓練の主旨はわかるが、役所の実績作りの様に思えてならない。このような場をきっかけにして自治会単位での訓練、実践をするような内容にすべき。そうすればもっと実感した災害への取組「自分の身の安全は自分で守る」が個々人に生れると思う。
- 職域、地域住民、学校との合同訓練が必要。緊急速報後の有線、無線によるアナログな情報発信も高齢者にとって重要だと思う。
- 訓練への関心の有無が顕著に表れるので、もう少し市民全員に行政を含めて関心を持ってもらえるように発信をしてほしい。
- 屋外スピーカーでの放送をどの程度の訓練参加者が聞いているものにとらえているのか知りたい。また、訓練メールの受信と行動を伴う訓練参加の両立をどう実現するかが今後の課題だと思う。
- 現行の大阪 880 万人訓練について、やらないよりはやったほうが良いと思うけど、今のやり方で実際の災害に対応できるのかまた効果があるのか疑問に思う。災害の専門家を交えて、もう少し実効性のある方法について検討したほうが良いのではないかな。
- 危機感を覚えてもらうのに、とても良い取り組みだと思うが、訓練の詳細や重要性がまだまだ市民へ届いていないように感じる。いきなり携帯電話が大音量でなり、面倒だと思う人が多い。
- 府全体の企業と自治体をもっと積極的に協力し、仕事中でも、何かしらの行動を起こせるような形の訓練をしてほしい。実際の災害はいつどこで起こるかわからないから。
- 災害時の持ち出し用具など一度準備しておけば、その後は定期的な点検が出来るようにする仕組みなどがあれば良いと思う。
- とにかく訓練を繰り返し行い、少しずつでも認識を深めてもらうことが重要だと思う。いろいろな改善点があるかもしれないが、定期的に必ず行うことが必要。
- 南海トラフ地震が近々起こる可能性が高くなっているので、日頃から対策をしておかないといけないと改めて感じた。また、親族や友人と地震が起きた時のことを想定して話をする機会を作らなければいけないと思う。